

古唐津

北大路魯山人



古唐津というものの良さは、日本陶器として古瀬戸、古備前、古萩、古伊賀、古信楽等の類品と共にいづれを姉とし、いづれを妹とすべくもないまでに、著しく他に優れた良さと日本趣味に富む野趣を存する。

古唐津は最初全く朝鮮の手法になっているが、漸を逐つて、日本固有の美形を具えて、一種の体をかまえて来る。随つて、底力を欠く朝鮮陶から救われて、力強い作風と変化し、純然たる日本精神を發揚すると共に、典雅な情趣を帯び来つて、まことに心憎いまでに人の心に迫つて来るものがある。

(昭和二十八年)

底本：「魯山人陶説」中公文庫、中央公論新社
1992（平成 4）年 5 月 10 日初版発行
2008（平成 20）年 11 月 25 日 12 刷発行
底本の親本：「魯山人陶説」東京書房社
1975（昭和 50）年 3 月

入力：門田裕志

校正：木下聡

2018 年 2 月 25 日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。